



## Press Information

VPR16-047

2016年7月4日(月)

フォルクスワーゲン グループ ジャパン 株式会社

### ラリー・ポーランドでミケルセン選手がドラマチックな逆転勝利

- ・ アンドレアス ミケルセン選手が大逆転で WRC 通算 2 勝目をマーク。
- ・ ポロ R WRC は「ラリー・ポーランド」3 連覇、WRC 通算 46 戦 38 勝。



2016年世界ラリー選手権第7戦「ラリー・ポーランド」は、6月30日～7月3日に同国北部の風光明媚なマズールィ湖水地方の「ミコワイキ」を中心に開催されました。

フォルクスワーゲン・モータースポーツのアンドレアス ミケルセン選手は、デイ1～2は3番スタートのハンディを負いながらも決意溢れるパフォーマンスを披露、オット タナク選手(M-スポーツ・フォード)と熾烈なバトルを繰り広げました。勝負の行方を決めたのは、フィニッシュまであとわずかに迫った地点でタナク選手に発生したパンクでした。最後まで追撃の手を緩めなかったミケルセン選手は、こうしてドラマチックな勝利を掴み、WRC 通算 2 勝目を飾りました。

セバスチャン オジェ選手は、1番スタートで苦戦を強いられましたが、最後はチームメイトのヤリマティ ラトバラ選手とフェアなバトルを見せ、6位でフィニッシュしています。ラトバラ選手は、オジェ選手を上回り5位でフィニッシュ、地元開催の「ラリー・フィンランド」に向けて弾みを付けました。

1912年に初開催された「ラリー・ポーランド」は、「ラリー・モンテカルロ」と並ぶ最古のラリーであると同時に、次戦「ラリー・フィンランド」に匹敵する高速グラベルイベントとして知られています。平均速度は120km/h超、昨年はミケルセン選手が136.88km/hのスペシャルステージ(SS)平均速度記録をマークしています。今年の総走行距離は1,253.29km、21カ所のSS距離は306.10kmです。

クルーと観客の安全性とラリーの魅力を向上させるため、主催者がルートに改良を加えた結果、昨年と同一のSSはわずか4カ所にとどまっています。フォルクスワーゲン勢は、好成績ゆえに先頭スタートを強いられ、グラベルでは路面に堆積したパウダー状の砂を掃除する役目を果たさなければなりません。今季はすべて表彰台に立ち、王者の賞禄を見せています。

金曜日のデイ1は、全10SS、121.92kmの構成ですが、これには木曜夕刻のセレモニアルスタートに続いて開催されたスーパーSSも含まれています。1番スタートのオジェ選手は、首位と16.3秒差の4位につけ、逆転優勝を狙える位置につけました。ラトバラ選手は6位で初日の競技を終えました。ポロR WRC勢でもっとも気を吐いたのがミケルセン選手でした。当初からリズムを掴み、トップとわずか4.2秒差の2位でデイ1をフィニッシュしています。

土曜日のデイ2は、全7SS。前日と同等の124.58kmが戦いの舞台です。デイ1よりも砂が厚く堆積するルートでは、スタート順が早いミケルセン選手がハンディを負ったものの、勇気溢れるパフォーマンスで午後はSSウインを含む好タイムを叩き出し、首位との差を21.3秒としました。WRCでは大差と言わざるを得ないタイム差ですが、逆転は不可能ではありません。ラトバラ、オジェ両選手は、5、6番手につけました。

日曜日の4SSは、夜間の降雨で滑りやすいコンディションに変わりました。2016年WRC前半戦最大のドラマは、残り2SSとなるSS20で起こりました。首位のマシンがパンクに見舞われ、40秒のタイムロス余儀なくされました。その結果、ミケルセン選手がトップに立ち、そのままフィニッシュしました。

フィンランドGPと呼ばれる第8戦「ラリー・フィンランド」は、7月28日～31日に学園都市「ユバスキラ」を中心に開催されます。

#### [終了後のコメント]

##### ■ フォルクスワーゲン モータースポーツ ディレクター: ヨースト カピート

「アンドレアス(ミケルセン)は、自らのパフォーマンスを誇りに思っているでしょう。最後まで諦めなかったからこそ、勝利を呼び寄せました。オット タナク選手も勝利に値します。チーム全体として見れば、今回のパフォーマンスには満足しています。完璧な仕事をしてくれたクルーに敬意を表します。」

##### ■ カー#1: セバスチャン オジェ(フランス) 最終結果: 6位

「アンドレアスを祝福します。最初から最後まで、彼らは戦い続けました。最終日は滑りやすいコンディションで苦労しましたが、チャンピオンシップに向けて貴重なポイントを稼ぐことができました。」

##### ■ カー#2: ヤリ-マティ ラトバラ(フィンランド) 最終結果: 5位

「アンドレアスは素晴らしい走りを見せてくれました。個人的には良い走りでしたが、リズムを掴むのが遅すぎたかもしれません。地元フィンランドを今から楽しみにしています。」

##### ■ カー#9: アンドレアス ミケルセン(ノルウェー) 最終結果: 1位

「何というリザルトでしょう！とにかくスタートから全力でアタックしました。今日はコンディションが一変したのでチャンスがあると思っていました。そのチャンスを掴めたことが幸いです。」

#### ■ FIA 世界ラリー選手権 第4戦ラリー・アルゼンチン最終結果

- |  |               |
|--|---------------|
| 1. アンドレアス ミケルセン/アンダース イェーガー(フォルクスワーゲン) | 2時間 37分 34秒 4 |
| 2. オット タナク/ライゴ メールダー(M-スポーツ・フォード)      | +26秒 2        |
| 3. ヘイデン パットン/ジョン ケナード(ヒュンダイ)           | +28秒 5        |

#### ■ FIA 世界ラリー選手権 マニュファクチャラーズ選手権ランキング(第7戦終了時点)

- |                       |     |
|-----------------------|-----|
| 1. フォルクスワーゲン・モータースポーツ | 196 |
| 2. ヒュンダイ・モータースポーツ     | 135 |
| 3. M-スポーツ             | 100 |

#### ■ FIA 世界ラリー選手権 ドライバーズ選手権ランキング(第7戦終了時点)

- |                            |     |
|----------------------------|-----|
| 1. セバスチャン オジェ(フォルクスワーゲン)   | 143 |
| 2. アンドレアス ミケルセン(フォルクスワーゲン) | 92  |
| 3. ヘイデン パットン(ヒュンダイ)        | 72  |
| 4. ヤリ-マティ ラトバラ(フォルクスワーゲン)  | 68  |

\* 結果はすべて暫定。